

取扱説明書

安全にお使いいただくために



- ※ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。
 - ※使用者及び介助者の方が、本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いいたします。
 - ※日常の点検を怠ると、思わぬ事故や車椅子の破損の恐れがあります。
 - ※お読みになられた後も、大切に保管し、必要に応じてくりかえし、お読みください。
 - ※取扱説明書の内容は、製品の仕様変更などにより予告なく変更する場合がございます。
- 必ず、ご購入された製品に梱包されている取扱説明書でご確認いただきますようお願いいたします。

1 安全にご使用いただくために

- 1-1.絵表示について…………… 2
- 1-2.警告に関する事項…………… 3～4
- 1-3.注意に関する事項…………… 5～6

2 構成部品と各部の名称 7～8

3 機能と特徴 9～10

4 車椅子に乗る前の点検 11

5 広げ方 12～13

6 おりたたみ方法 14

7 調整方法と使用方法

- 7-1.フットサポートの高さ調整方法…………… 15
- 7-2.フットプレートの前後位置・角度調整方法…………… 16
- 7-3.レッグループの調整方法…………… 17
- 7-4.レッグサポートの着脱方法…………… 18
- 7-5.レッグサポートのエレベーター方法…………… 19
- 7-6.レッグパッドの調整…………… 20
 - レッグパッドの奥行き調整
 - レッグパッドの高さ調整
 - レッグパッドの左右調整
- 7-7.アームサポートの高さ調整方法…………… 21
- 7-8.アームサポートのフリップバック方法…………… 22
 - アームサポートのフリップアップ（跳ね上げ）
 - アームサポートのフリップバック（後ろ収納）
 - アームサポートの戻し方
- 7-9.バックサポートの背張り調整方法…………… 23～24
- 7-10.駐車ブレーキの調整方法…………… 25～26
- 7-11.転倒防止バー《使用・調整方法》…………… 27

8 オプション品

- レンタル・購入共通オプション
- 8-1-1.ボンベ架《取付方法》…………… 29
- 8-1-2.テーブル《取付方法》…………… 30
- 8-1-3.つえ立て《取付方法》…………… 31
- 8-1-4.幅広アームサポート…………… 32
 - 《使用・調整方法》
- 8-2-1.エレベーターレッグサポート…………… 33
 - 《使用方法》
- 8-2-2.車体カバー《取付方法》…………… 34

9 安全な使用方法

- 9-1.駐車ブレーキの使用法…………… 35
- 9-2.介助用ブレーキの使用法…………… 35
- 9-3.段差での走行方法…………… 36～37
 - 自走の場合
 - 介助してもらう場合
- 9-4.坂道でのこぎ方・押し方…………… 38
 - 自走の場合
 - 介助してもらう場合
- 9-5.傾いた道でのこぎ方・押し方…………… 39
 - 自走の場合
 - 介助してもらう場合
- 9-6.溝越え…………… 40
 - 自走の場合
 - 介助してもらう場合

10 日常のお手入れと点検方法 41

11 保管方法 41

12 廃棄方法 41

13 保証 42

1 安全にご使用いただくために

本製品の機能を十分に生かし、かつ安全にご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読み内容を理解してください。その後、大切に保管し、必要に応じてくりかえしお読みください。

車椅子「リアライズ シェイプ」とは

車椅子は乗り心地やフィッティングよりも移動手段の道具、そして介助される方が持ち運びの事を考え、軽量であればいいとの考えが多くあります。

しかし、本来 車椅子は身体、環境、生活に合わせたフィッティングが大切であり、車椅子に乗られている方が心地よく快適に使用できる事が重要ではないでしょうか。

リアライズシェイプは豊富なサイズバリエーションと各種機能でこれを実現しました。

また、バックサポートに独自の立体的な形状を作り出し、より上質な生地を使用しました。

是非、今までに経験した事のない"夢のような快適性"をお楽しみください。

1-1. 絵表示について

この取扱説明書では色々な絵表示をしています。これは本製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々に加える恐れのある危害や損害を未然に防ぐための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると使用中に不具合を生じ、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると使用中に不具合を生じ、傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

1-2. 警告に関する事項



- 日常の保守点検は1日1回使用前に使用者もしくは介助者が必ず行ってください。また、保守点検を行っていない車椅子は使用しないでください。保守点検の方法は「10 日常のお手入れと点検方法」(P41)をご参照ください。
- 緊急の時以外は使用者が前のめりになるような急ブレーキはかけないでください。使用者が車椅子から落ちて死亡または重傷を負う恐れがあります。
- 本製品を使用中はブレーキが確実にきいていることをたえず確認しながら使用してください。ブレーキがきかない場合、介助者が車椅子を制御できず死亡または重傷を負う恐れがあります。
- 背折れ金具より上側を持って運ばないでください。持ち上げた際に車椅子が破損して階段等から落下し、死亡または重傷を負う恐れがあります。
- 階段等を上り下りする際は本体フレーム以外は持たないでください。持ち上げた際に車椅子が破損して階段等から落ち、死亡または重傷を負う恐れがあります。
- 移動している時以外は必ず駐車ブレーキをかけてください。意図せぬ時に動き出して事故等を起こし、死亡または重傷を負う恐れがあります。
- 走行中、身体を乗り出す等して、走行の安定性を損なうことのないようにしてください。車椅子ごと転倒し死亡または重傷を負う恐れがあります。
- グリップ等に荷物をぶら下げないでください。後方転倒し、死亡または重傷を負う恐れがあります。

警告

-  階段等を上り下りする際は、4名以上の方で車椅子を持ってください。階段等から落ち、死亡または重傷を負う恐れがあります。
-  フットサポートやシートの上に立たないでください。車椅子ごと転倒し死亡または重傷を負う恐れがあります。
-  踏台や脚立のかわりに使用しないでください。車椅子ごと転倒し死亡または重傷を負う恐れがあります。
-  本製品は歩行器ではありません。歩行器のかわりに使用しないでください。
-  使用者、介助者は本製品を修理改造しないでください。破損等が生じた場合は必ずそのまま使用せず取扱店に修理交換をお申し出ください。
-  傾斜地での走行または駐車は十分注意してください。車椅子ごと転倒し死亡または重傷を負う恐れがあります。
-  ソリッドキャストは屋内専用です。屋外では使用しないでください。車椅子が破損して転倒し死亡または重傷を負う場合があります。
-  使用者と介助者は、本製品の使用方法や取扱注意事項等が理解できるまで本製品をご使用にならないでください。
-  本書の安全に関する指示事項には必ず従ってください。

1-3. 注意に関する事項

注意

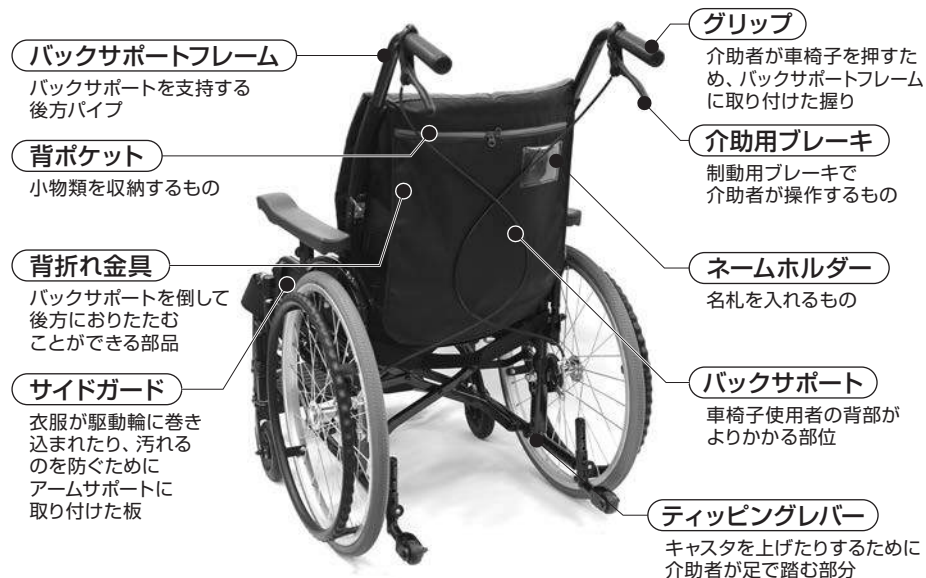
-  段差を乗り越える際、グリップを引く動作とティップingleレバーを踏む動作は必ず同時に行ってください。どちらか一方のみの動作の場合、キャストが持ち上がらなかったり、本製品が破損する恐れがあります。
-  直射日光のあたる場所や炎天下の車内に長時間放置したり、熱器具（ストーブ等）の近くで使用しないでください。熱により変色や変形する恐れがあります。変形した本製品は使用しないでください。
-  市販されているクッション類や座ぶとんを使用する場合は、取扱店に相談してください。着座中の姿勢が悪くなる恐れがあります。
-  本製品の搭乗者最大体重は100kg以下(手荷物等の積載物を含む)です。100kgを超える場合は本製品が変形する恐れがあります。変形した本製品は使用しないでください。
-  フットサポートや足を段差にぶつけないようにしてください。けがをしたりフットサポートが破損する恐れがあります。
-  走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
-  乗り降りの際は、フットプレートを両方ともに跳ね上げてご使用ください。ケガをしたり、フットプレートが破損する恐れがあります。
-  走行中、スポークで指や手をつめないようにしてください。
-  バックサポートフレームを起こす際は、グリップを持って操作してください。グリップ以外の部分（特に背折れ金具付近）を持って操作すると、指をつめる恐れがあります。
-  シートを広げる際は、シート上から指がはみ出さない位置に手を置いて操作してください。シート上から指がはみ出した場合、指をつめる恐れがあります。

注意

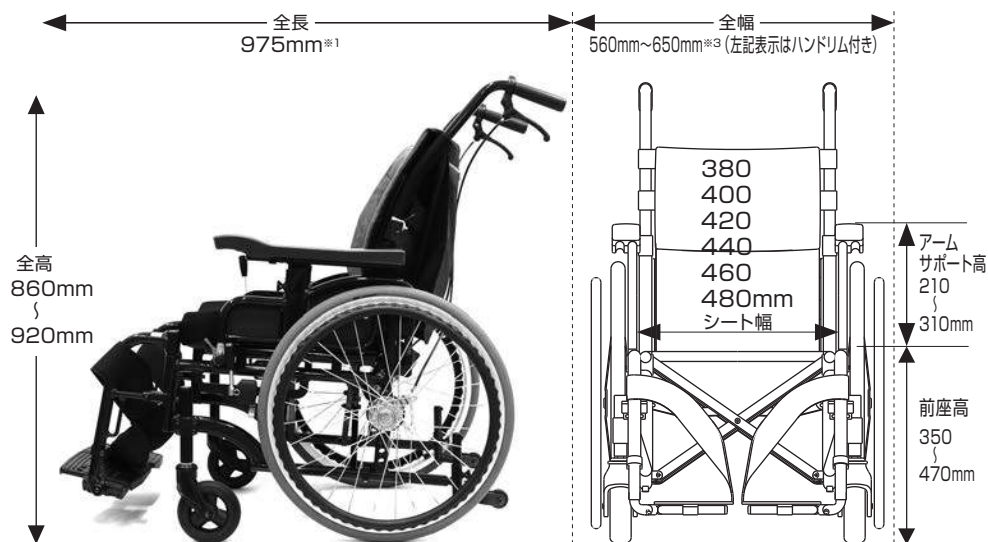
- 本製品を組み立てる際は、シートフレームで指をつめないようにしてください。
- 製品の不断の改良により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄については取扱店までお問い合わせください。
- 本書に規定した方法以外での使い方に対しては、安全性は保証できません。
- 本書中の図は一部を省略したり抽象化した表現になっているものがあります。
- 本製品は改良のため予告なしに変更する場合があります。
- 本書の内容に関しましては万全を期していますが、万一不審な点や誤り、乱丁、落丁記載漏れなどに気付いた場合は取扱店までご連絡ください。
- 本書は製品とともに常に手元に保管し、必要に応じてくりかえしお読みください。
- 本書を紛失または損傷した場合は速やかに取扱店までご連絡ください。
- バックサポートの背張り調整後は、手でバックサポートを押し、確実に固定できていることを確認してください。

2 構成部品と各部の名称

本製品は下記の部品で構成されています。不足部品がないか点検してください。



● 仕様諸元



※サイズはmm表示です。

●タイプ (シート幅×シート奥行き) [※]	380×330、400×330、420×350、440×350、 460×370、480×370mm	
●総重量	約14.9Kg (シート幅380mm、駆動輪18インチハンドリムなしの場合)	
●キャストサイズ	5、6インチソリッドキャスト/5、6インチPUキャスト	
●駆動輪サイズ	18、20、22、24インチ	
●介助用ブレーキ方式	内拵ハブブレーキ	
●駐車ブレーキ方式	押し引きタックルブレーキ	
●駆動輪の適性空気圧	18インチの場合 4.5kgf/cm ² ・(450kPa)	
	20インチの場合 7kgf/cm ² ・(700kPa)	
	22、24インチの場合 7.5kgf/cm ² ・(750kPa)	
●主材質	本体フレーム	強化アルミ合金
	シート	ポリエステル
	サイドガード	PVC
	グリップ	合成ゴム
●使用者最大体重	100kg (手荷物の積載物を含む)	
●本書の対象者	使用者、介助者、レンタル事業者、他取扱店	

※1. 全長はキャスト5インチ・フットプレートが一番引き込んだ設定寸法です。

※2. シート幅、サイドガード間距離で表記、座シート奥行きは寸法基準点からの寸法です。
5cm足した寸法が一般的な車椅子の座奥と同じです。

※3. 18インチハンドリムなしの仕様は全幅が約5cm狭くなります。

3 機能と特徴

① バックサポート

クッション材の厚みを変えることによりできた独自の立体的な形状です。
やわらかさがありながら、身体をしっかりとサポートします。

② スワンネックフレーム

立体的な人と一体化したような独自形状のバックサポートです。
自然で安楽な姿勢を保ちます。

③ バックサポート (背張り調整式)

バックサポートを身体の形状に合わせて調整できます。(調整方法、P. 23参照)
座ったままでの背張り調整が可能となり、背中へのストレスが少なくなりました。
調整幅も広くなり、適合性も向上しました。
クッション性の高いシートが付いています。

④ 体幹パッドポケット (左右)

バックサポート側部にサポートクッション取り付け用のポケットを設けました。
サポートクッションを取り付けることで、より身体に合わせた調整ができます。

⑤ レッグサポート (クイックリリース式)

レッグサポートがワンブッシュで取り外しできます。(使用方法、P. 18参照)
取り外すと、移乗や足こぎがしやすくなります。
足こぎの場合、取り外して使用することができます。
※オプションで、エレベーター式レッグサポートもございます。(使用方法、P. 19参照)
膝関節に屈曲制限がある方にお勧めです。

⑥ フットプレート (前後位置・角度調整式)

快適に座るには、足の場所が重要です。
フットプレートを前後に調整できます。(調整方法、P. 16参照)
足首の角度に合わせてフットプレートも調整できます。
※大きく安定感があり、角度可変するフットサポートで、足をしっかりとサポートします。



4 車椅子に乗る前の点検について

●本製品をご購入後は、ご使用前にまず下記のチェックを行ってください。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると使用中に不具合を生じ、傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

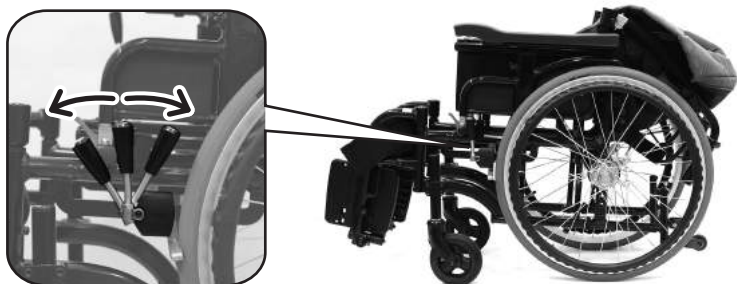
[ご使用前に必ず次の点検を行ってください。]

- (1) 介助用ブレーキと駐車ブレーキはきくか ☐
- (2) 各ベルト類はゆるみやガタつきがなく取り付けられているか ☐
- (3) 各ベルト類に損傷や裂け等はないか ☐
- (4) 縫製部分のほつれはないか ☐
- (5) 面ファスナーの接着不良はないか ☐
- (6) 各部にひび割れや欠け、変形等はないか ☐
- (7) 各部のネジにゆるみやガタつきはないか ☐
- (8) カシメ部分にゆるみやガタつきはないか ☐
- (9) 駆動輪がパンクしていないか ☐
- (10) その他の異常はないか ☐

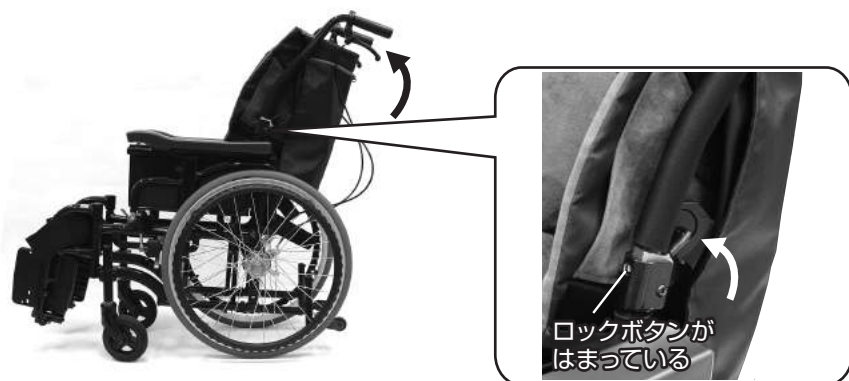
万一破損や異常を発生した場合はそのまま使用せず、必ず取扱店にご連絡ください。異常状態のまま、絶対に使用しないでください。

5 広げ方

- ①左右の駐車ブレーキをかけます。

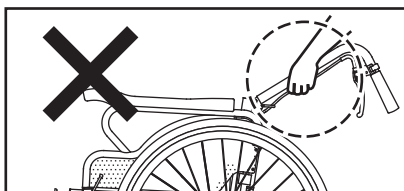
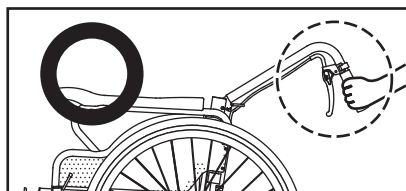


- ②バックサポートフレームを起こして左右の背折れ金具のロックボタンを図の様にします。



⚠ 注意

バックサポートフレームを起す際は、グリップを持って操作してください。グリップ以外の部分（特に背折れ金具付近）を持って操作すると、指をつめる恐れがあります。



- ③ グリップを2～3回軽く引っ張って、バックサポートフレームが固定できているか確認します。



- ④ アームサポートを持って左右に広げます。



注意

バックサポートフレームの固定は絶対に確認してください。バックサポートフレームが固定できていない場合、意図せぬ時にバックサポートがおりたたまれ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

- ⑤ 図のような位置に手の平を置き、指づめに注意しながら左右のシートフレームを下側に押し、フレームがおりたたみ状態に戻ってこないようにします。
- ⑥ 本体フレームの上にきっちりとシートフレームが乗っている事を確認します。

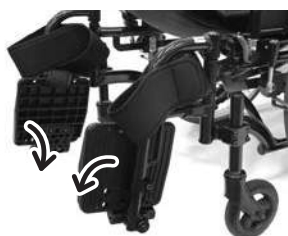


注意

下図のような方法で使用しないでください。指をつめてけがをする恐れがあります。

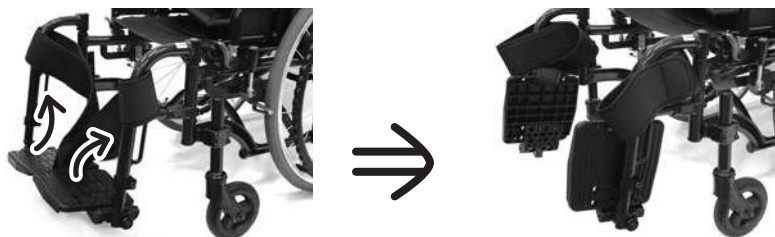


- ⑦ フットプレートを開き、組立ては終了です。



6 おりたたみ方法

- ① 左右のフットプレートを上跳ね上げます。

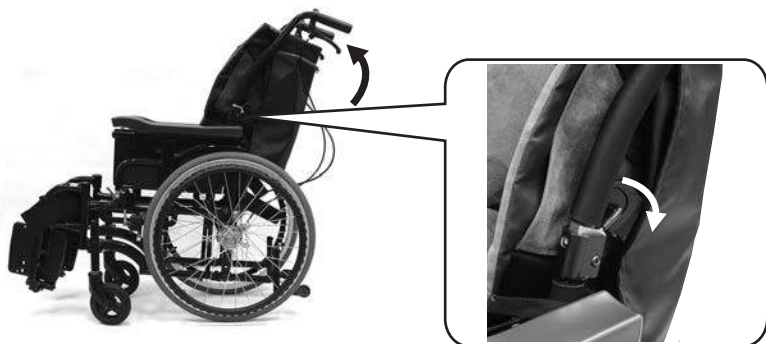


- ② シートの中央付近を持ち上げます。

- ③ アームサポートを持ち左右から押し込める様におりたたみます。



- ④ 左右の背折れ金具レバーを後方に倒し、バックサポートフレームを後方に倒します。



7 調整方法と使用方法

7-1. フットサポートの高さ調整方法

⚠ 注意

- フットサポートの高さは車椅子使用者や介助者自身では調整しないでください。フットサポートの高さ調整が必要な場合は、取扱店にお申し出ください。
- 下記調整方法は、取扱店を対象にした説明です。

①車椅子に座ります。



②レッグサポートの先端に付いているネジ(A)を緩めます。
(ネジを取り外す必要はありません)
高さを合わせ、ネジを締めます。



⚠ 注意

- フットサポートは最下部の地上高さが50mm以下になるような高さで使用しないでください。
- 特に室内でフットプレートを跳ね上げてご使用の時は、フットサポートの下部突起に触れないよう十分注意してください。



7-2. フットプレートの前後位置・角度調整方法

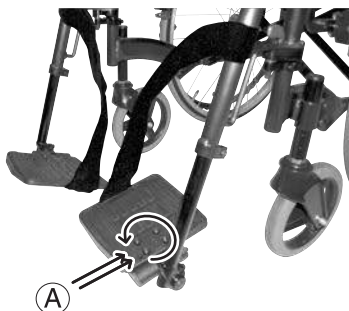
大きく安定感があり、角度可変するフットサポートです。

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

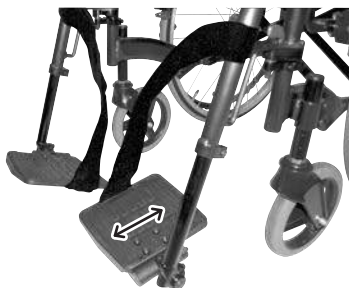
⚠ 注意

- フットプレートの固定は絶対に確認してください。フットプレートが固定できていない場合、意図せぬ時にフットプレートが回転し、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。
- フットプレートと地面の隙間は50mm以上あげてください。十分な隙間がない場合、地面の障害物にフットプレートが引っかかり、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

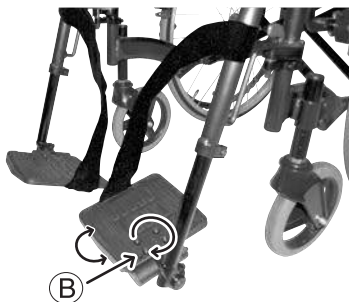
- ① ①(A)のネジ(4個)を外します。



- ② 穴の前後位置を変更し、ネジ(4個)を取り付け締めます。
(左右の微調整はできます。)



- ③ ②(B)のネジを緩めます。
(ネジを取り外す必要はありません。)
角度を合わせ、ネジを締めます。



- ④ 同様に、反対側のフットプレートも調整します。

7-3. レッグループの調整方法

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

同時に、反対側のレッグループも調整します。



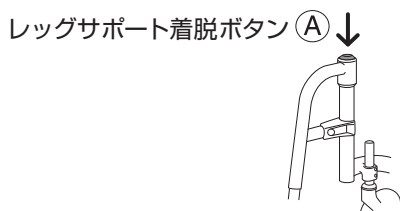
レッグループの面ファスナーは、ズレがないように止めてください。ズレがあると車椅子使用中にはがれる恐れがあり、レッグループ本来の役割を果たせなくなる恐れがあります。

7-4. レッグサポートの着脱方法

ワンプッシュで着脱でき、移乗や足こぎがしやすいレッグサポートです。

●レッグサポートの取り外し方

- ①レッグサポート着脱ボタン ①A を押しながら、レッグサポートを上方に引き抜き、レッグサポートを外します。



- ②同様に、反対側のレッグサポートも取り付けます。

●レッグサポートの取り付け方

- ①レッグサポート着脱ボタン ①A を押しながら、レッグサポートを上方から奥まで差し込みます。しっかりとロックがかかり、レッグサポートが本体フレームに固定できたことを確認します。



- ②同様に、反対側のレッグサポートも取り付けます。

⚠ 注意

- 指や手をつめないよう十分注意しながら、レッグサポートの着脱はゆっくりと、静かに行ってください。
- レッグサポートの固定は絶対に確認してください。レッグサポートが固定できていない場合、フットサポートが意図せぬ時にレッグサポートが外れ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

レッグサポートの固定は絶対に確認してください。レッグサポートが固定できていない場合、レッグサポートが意図せぬ時にレッグサポートがおりたため、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

3. (ネジを取り外す必要はありません。)
- 
- A

-

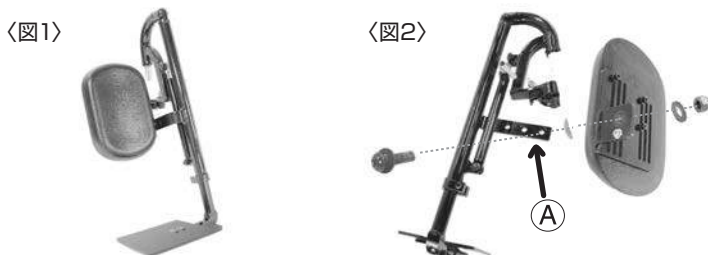
- ④同様に、反対側のレッグサポートも調整します。

7-6. レッグパッドの調整方法 (エレベーター式レッグサポートの場合のみ)

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

●レッグパッドの奥行き調整

① 図1のレッグパッドを横向け、図2のようにネジとナットを取り外します。



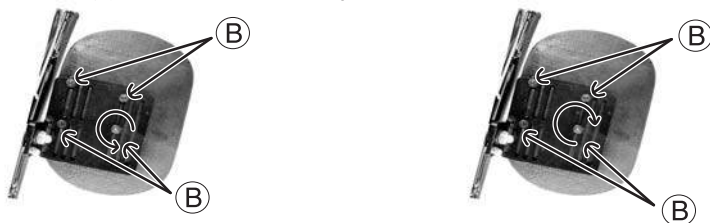
② 図2の (A) の穴位置を変更し、ネジとナットを取り付けます。

③ 同様に、反対側のレッグサポートも調整します。

●レッグパッドの高さ調整

① レッグパッドを裏向け、(B) のネジ (4個) を緩めます。
(ネジを取り外す必要はありません。)

② 高さを合わせ、(B) のネジ (4個) を締めます。



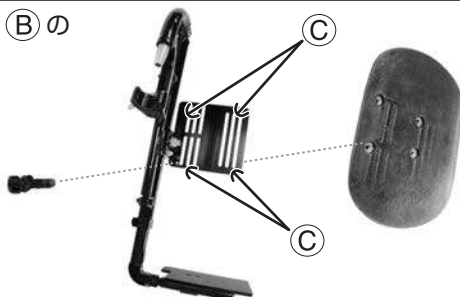
③ 同様に、反対側のレッグサポートも調整します。

●レッグパッドの左右調整

① レッグパッドの高さ調整で使用した (B) のネジ (4個) を取り外します。

② (C) の長穴位置を変更し、(B) のネジ (4個) を取り付けます。

③ 同様に、反対側のレッグサポートも調整します。



7-7. アームサポートの高さ調整方法

つまみを引っ張って回すことで、アームサポートを上下にスライドさせることが可能です。

アームサポートと本体との穴の位置を合わせつまみを戻すことで固定します。



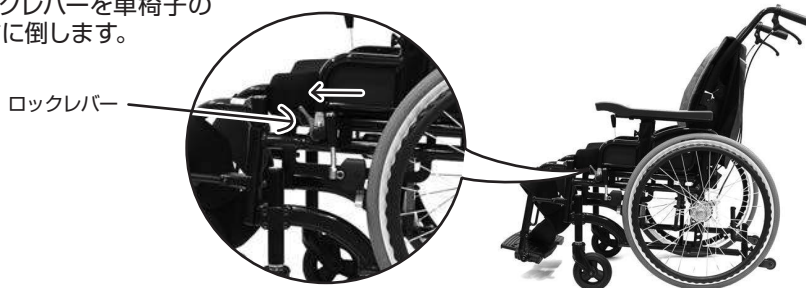
注意

アームサポートの固定は絶対に確認してください。アームサポートが固定できていない場合、意図せぬ時に外れ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

7-8. アームサポートのフリップバック方法

●アームサポートのフリップアップ（跳ね上げ）

- ① ロックレバーを車椅子の前方に倒します。



- ② ロックレバーを前方に倒しながらアームサポートを上方に引き上げます。



- ③ バックサポートの後方までまっすぐに回転させます。



●アームサポートのフリップバック（後ろ収納）

アームサポートを内側に、倒します。



●アームサポートの戻し方

アームサポートを下ろし、しっかりとロックがかかり、アームサポートが固定できたことを確認します。



注意

アームサポートを下ろす時は、身体や衣服をはさまないようにしてください。アームレストの固定は絶対に確認してください。（アームサポートが固定できていない場合、意図せぬ時に、アームサポートが外れ、使用者が本製品から転倒、ケガをする恐れがあります。）

7-9. バックサポートの背張り調整方法 1

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

①バックサポートをめくりあげます。

②内部の面ファスナーを調整することにより、腰（骨盤）の傾きを適切な位置に調整します。



⚠ 注意

バックサポートの背張り調整後は、手でバックサポートを押し、確実に固定できていることを確認してください。バックサポートが固定できていない場合、意図せぬ時にバックサポートが外れ、使用者が本製品から後方転倒し、ケガをする恐れがあります。

⚠ 注意

リアライズ シェイプでは使用者が座ったままでも背張り調整できますが、背折れ金具より上側の調整は、使用者がせず介助者が行ってください。後方転倒し、使用者がケガをする恐れがあります。

7-9. バックサポートの背張り調整方法 2

③バックルのつまみを左右挟むことにより、バックルを取り外しする事が可能です。



またバックルを差し換える事で、クロスにベルトを張る事も可能です。

バックルを差し込む場合は丸い印が後方になるよう向きに注意し、“カチッ”というまで差し込んでください。



注意

バックルの固定は絶対に確認してください。バックルが固定できていない場合意図せぬ時に外れ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

●V字ベルト選択のお客様の場合

バックルを差し換える事で、V字ベルトの上下位置調整を変える事が可能です。
またベルトの長さを変える事でサポート部の左右位置調整が可能です。



7-10. 駐車ブレーキの調整方法

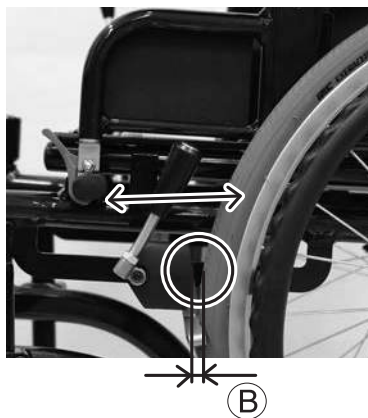
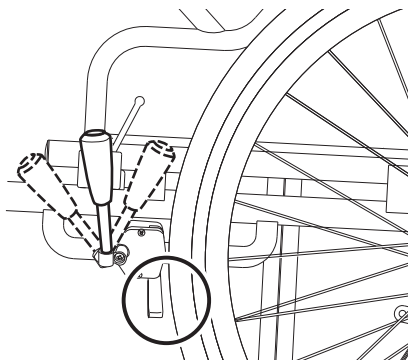
⚠ 注意

駐車ブレーキの固定は絶対に確認してください。駐車ブレーキが固定できていない場合、駐車ブレーキがかからず、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

- ① ① ① のネジ (2個) を緩めます。(ネジを取り外す必要はありません。)



- ② タイヤ押さえとタイヤのすき間 ③ が 3mm になるまで移動させます。
(下図は、駐車ブレーキがかかっていない状態です。)

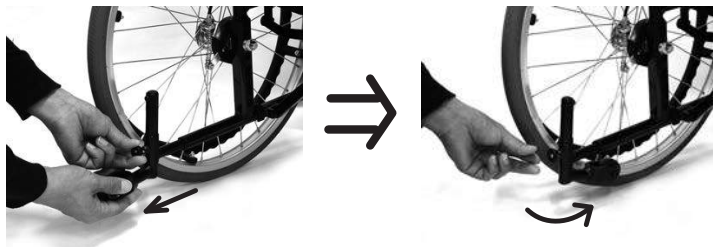


- ③ ①の逆の手順で ④ のネジを締め、駐車ブレーキを固定します。
上下 (2個) のネジを均一に締めます。

- ④ 同様に、反対側の駐車ブレーキも調整します。

7-11. 転倒防止バー《使用・調整方法》

- 収納方法** 転倒防止バーのつまみを引っ張り、回転させます。
回転後は、必ずつまみを戻して、固定させます。



●高さ調整方法

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

⚠警告

転倒防止バーの固定は絶対に確認してください。転倒防止バーが固定できていない場合、意図せぬ時に転倒防止バーが外れ、使用者が本製品から転倒し重傷を負う場合があります。

転倒防止バーのつまみを引っ張り、高さを合わせます。
高さ調整後は、必ずつまみを戻して固定させます。



8 オプション品

本製品には以下のオプションがあります。

① レンタル・購入 共通オプション

● レンタルオプション

- 8-1-1. ボンベ架 取付方法 (P. 29) 参照
車椅子の後方に酸素ボンベを載せることができます。
- 8-1-2. テーブル 取付方法 (P. 30) 参照
アームサポートの上に乘せる多目的用のテーブルです。
- 8-1-3. つえ立て 取付方法 (P. 31) 参照
車椅子の後方につえを立てることができます。
- 8-1-4. 幅広アームサポート 取付方法 (P. 32) 参照
広い面積で肘を支えるアームサポートです。
- * FRアダプター
駆動輪を標準位置より35mm前後に移動させるアタッチメントです。
- * スポークカバー (透明)
駆動輪のスポークに取り付けるカバーです。指や手の巻き込みを防ぎます。
- * 座クッション
より快適な座位が長時間保てます。
- * ノーパンクタイヤ
パンクしないエアチューブなしのタイヤです。

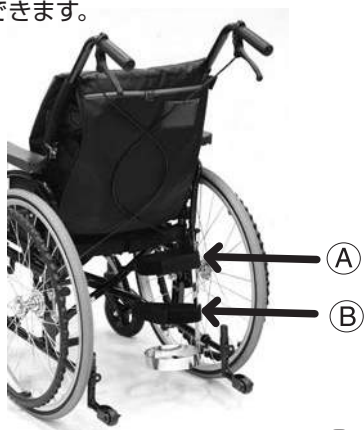
● 購入オプション

- 8-2-1. エレベーター式レッグサポート 使用方法 (P. 33) 参照
膝関節に屈曲制限のある方にお勧めです。
- * スポークカバー (デザイン柄)
駆動輪のスポークに取り付けるデザイン柄のカバーです。指や手の巻き込みを防ぎます。
- 8-2-2. 車体カバー 取付方法 (P. 34) 参照
車椅子を保管する時の汚れ防止カバーです。

8-1-1. ポンベ架《取付方法》

車椅子の後方に酸素ポンベを載せることができます。

- ① ① ② のベルトを緩めます。



- ② 緩めたベルトの上から、酸素ポンベを通します。
③ ③ の受けにしっかりと載せます。



- ③ ① で緩めたベルトを、④ ⑤ の順番で固定します。



⚠ 注意

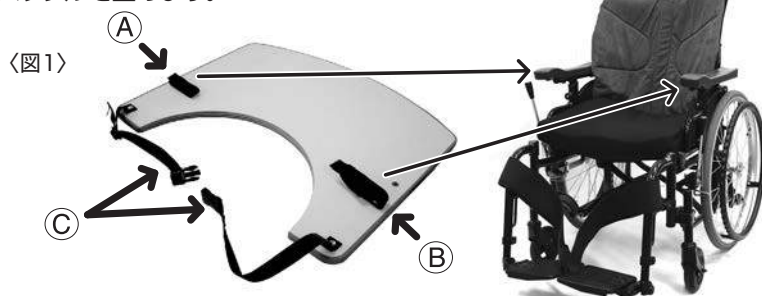
酸素ポンベの固定は絶対に確認してください。酸素ポンベが固定できていない場合、意図せぬ時に酸素ポンベが外れ、使用者が死亡または重傷を負う恐れがあります。

8-1-2. テーブル《取付方法》

アームサポートの上に乗せる多目的テーブルです。

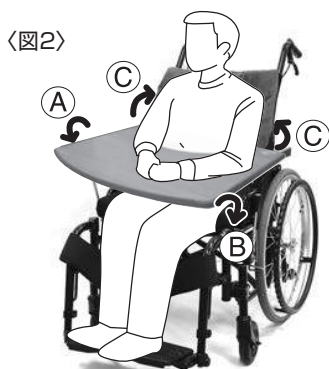
●テーブルの取り付けベルトの説明

- ① テーブルを図1の様に裏（白色側）向けます。
- ② ①(A)のベルトは、車椅子の右アームサポートに、②(B)のベルトは、車椅子の左アームサポートにそれぞれ巻き付け、止めます。
- ③ ③(C)のベルトは、車椅子のバックサポート裏に巻きつけ、バックルを止めます。



●テーブルの取り付け手順

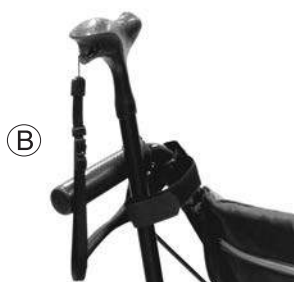
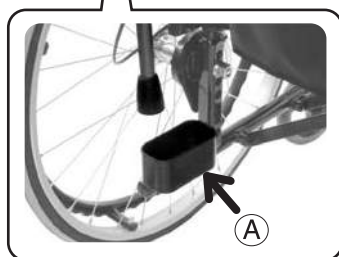
- ① テーブルを図2の様に置きます。
- ② 図3の①(D)のすき間を利用し、②(A)(B)のベルトを、それぞれ巻き付け、止めます。
- ③ ③(C)のベルトは、車いすのバックサポート裏に巻き付け、バックルを止めます。



警告

テーブル固定は絶対に確認してください。（テーブルが固定できていない場合、意図せぬ時にテーブルが外れ、使用者が本製品から転倒し重傷を負う場合があります。）

車椅子の後方につえを立てることができます。



つえの固定は絶対に確認してください。つえが固定できていない場合、意図せぬ時につえが外れ、ケガをしたり車椅子、つえが破損する恐れがあります。

8-1-4. 幅広アームサポート《使用・調整方法》

幅広アームサポート固定レバーを起こすことにより、幅広アームサポートが左右にスライド可能です。



使用したい位置にスライドさせます。



調整後レバーを倒し固定します。



注意

幅広アームサポートの固定は絶対に確認してください。幅広アームサポートが固定できていない場合、意図せぬ時に外れ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

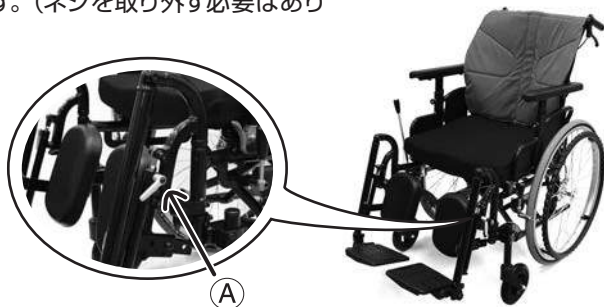
8-2-1. エレベティング式レッグサポート《使用方法》

※適切な位置については取扱店、医療従事者にご相談ください。

⚠ 注意

レッグサポートの固定は絶対に確認してください。レッグサポートが固定できていない場合、フットサポートが意図せぬ時にレッグサポートがおりたたまれ、使用者が本製品から転倒する恐れがあります。

- ① ① ① のネジを緩めます。(ネジを取り外す必要はありません)



- ② ② ② の場所を持ちレッグサポートを上下に調整します。



- ③ ③ ③ のネジを締め、レッグサポートを固定します。

- ④ ④ ④ 同様に、反対側のレッグサポートも調整します。

※レッグパッドの調整方法は、(P20) をご参照ください。

8-2-2. 車体カバー《取付方法》

車椅子を保管する時の汚れ防止カバーです。

- ① 車椅子を折りたたみます。
おりたたみ方法は (P14) を
ご参照ください。
- ② 車体カバーの前側すそ部にある
識別テープ (黄色) を図1の様に
車体カバーを後方から前方に向けて
車椅子にかぶせます。



〈図1〉

- ③ 図2の様にかぶせたカバーを
整えます。
- ④ 取り外しは、取り付けた逆の手順で
行います。



〈図2〉

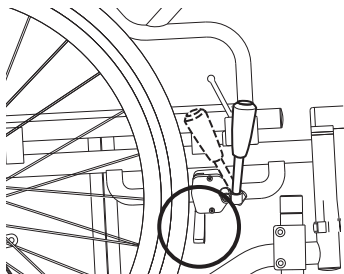
⚠ 注意

- 車椅子をおりたたんだ状態で車体カバーをかぶせてください。
- グリップやフットプレート他の突起物等に引っ掛けて、車体カバーが破れないようにしてください。

9 安全な使用方法

9-1. 駐車ブレーキの使用方法

〈図1〉



〈図2〉

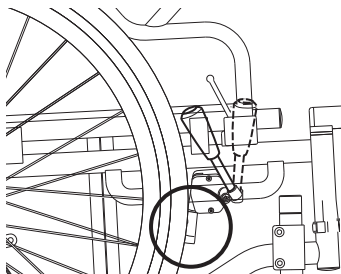


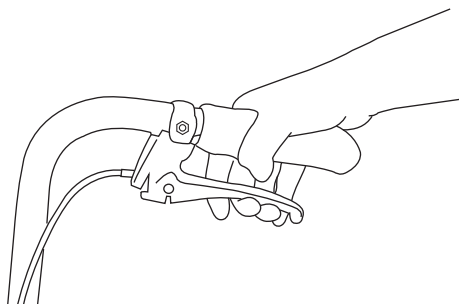
図1の状態では駐車ブレーキがかかっていません。

図2の状態では駐車ブレーキがかかっています。

警告

移動している時以外は必ず駐車ブレーキをかけてください。
意図せぬ時に動き出し、事故等を起こす恐れがあります。

9-2. 介助用ブレーキの使用方法



介助用ブレーキは、ブレーキレバーを握っている時だけブレーキがかかり、
ブレーキレバーを握っていない状態では、ブレーキはかかりません。
自転車のブレーキと同じ要領で、介助者がブレーキをかけます。

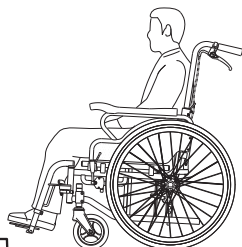
警告

緊急の時以外は、使用者が前のめりになるような急ブレーキはかけないでください。
使用者が車椅子から落ちて死亡又は重傷を負う恐れがあります。

9-3. 段差での走行方法

●自走の場合

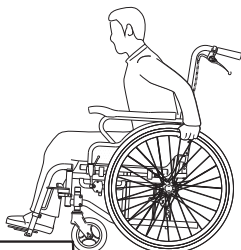
①キャストが段差の直前になるような位置で停車します。



⚠ 注意

フットサポートや足を段差にぶつけないようにしてください。
ケガをしたりフットサポートが破損する恐れがあります。

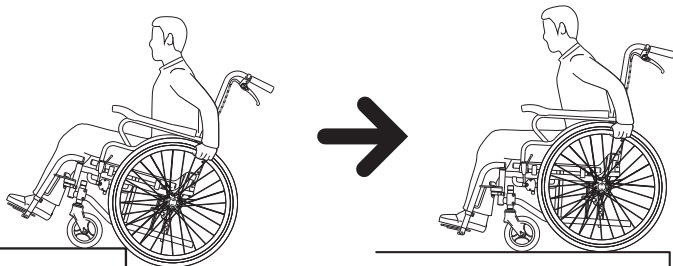
②段差に対して直角に進み、段差にキャストを少しあてます。



⚠ 注意

段差にフットサポート（フットプレート）が当たる場合は、まわりの方に介助をお願いしてください。

③身体を前傾させ（おしりの位置は奥深く）ハンドリムを強くこいで前進します。



⚠ 警告

- どうしてもものぼれない場合は、介助してもらってください。
- 勢いよく段差を上ろうとすると、キャストが段差に跳ね返り、その反動で後方転倒し、使用者が落ちて死亡又は重傷を負う恐れがあります。

9-3. 段差での走行方法

● 介助してもらう場合

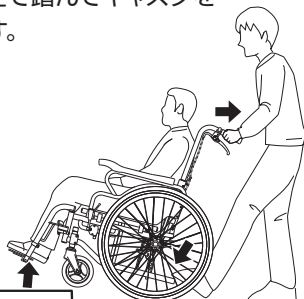
- ① キャスタが段差の直前になるような位置で停車します。



⚠ 注意

フットサポートや足を段差にぶつけないようにしてください。ケガをしたりフットサポートが破損する恐れがあります。

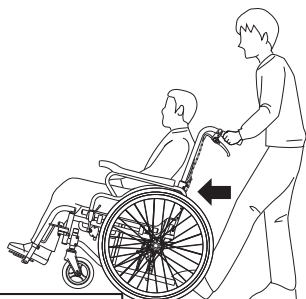
- ② グリップを真上から押しながら、同時にティッピングレバーの左右どちらかを足で踏んでキャストを持ち上げます。



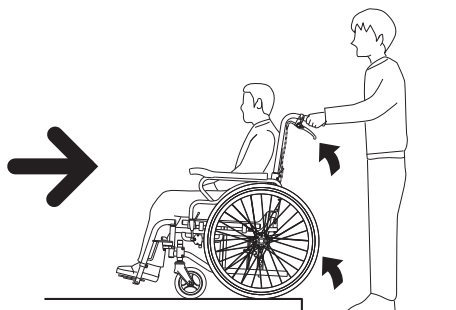
⚠ 注意

グリップを引く動作とティッピングレバーを踏む動作は必ず同時に行ってください。どちらか一方のみの動作の場合、キャストが持ち上がらなかったり車椅子が破損する恐れがあります。

- ③ キャストを持ち上げながら駆動輪だけで段差の所まで移動します。



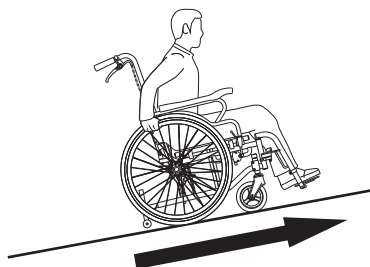
- ④ グリップを持って車椅子を持ち上げ段差を乗り越えます。



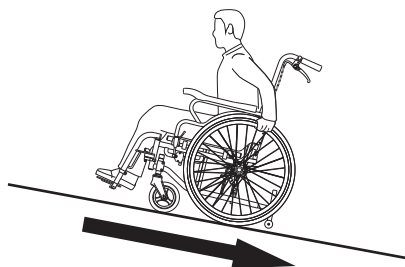
9-4. 坂道でのこぎ方・押し方

●自走の場合

坂道では、前傾の姿勢で上り、下るには前傾の姿勢でハンドリムでブレーキをかけながら下るのが基本です。



上がる時は前向きで。



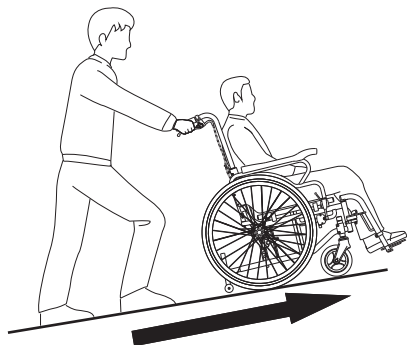
下る時は後ろ向きで。

! 警告

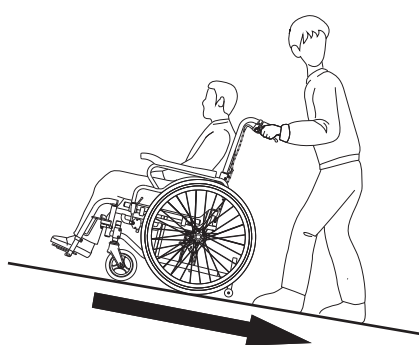
下りの坂道では、駆動輪が回転中に駐車ブレーキを使用しないでください。転倒しケガをする恐れがあり大変危険です。

●介助してもらう場合

坂道では、前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



上がる時は前向きで。



下る時は後ろ向きで。

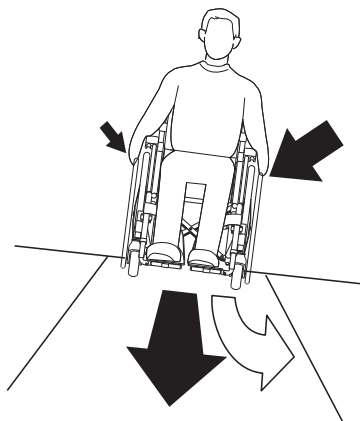
! 警告

坂道を前向きで下ると使用者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

9-5. 傾いた道でのこぎ方・押し方

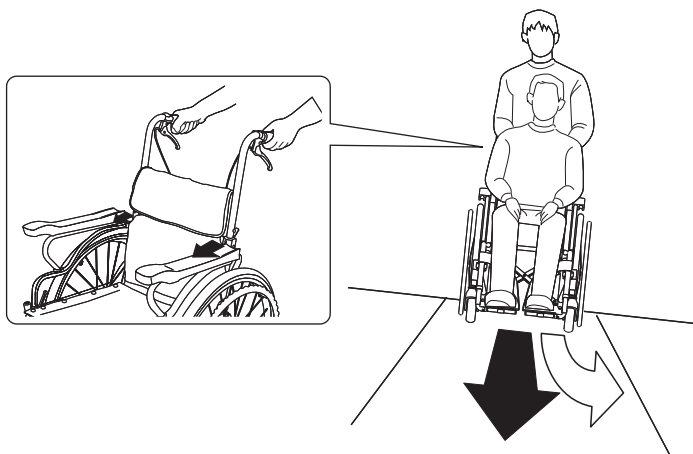
●自走の場合

傾いている側の手に力を入れて、車椅子が道の低い方へ曲がらないようにします。
普通のこぎ方では低い方に曲がってしまいます。



●介助してもらう場合

傾いている側の手に力を入れて、車椅子が道の低い方へ曲がらないようにします。
普通の押し方では低い方に曲がってしまいます。



9-6. 溝越え

●自走の場合

①キャストや駆動輪の幅や直径よりも広い溝や踏み切り等を通過する場合は、〈図1〉のように溝に対してできるだけ直角になる角度で進入してください。

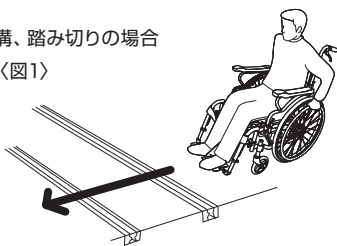
直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまって抜けなくなる恐れがあります。

「9-3段差での走行方法」のようにして、溝の手前でキャストを持ち上げてから通過するの一つの方法です。

②グレーチング（側溝を埋める金網）を通過する場合は、〈図2〉の様な角度で進入します。

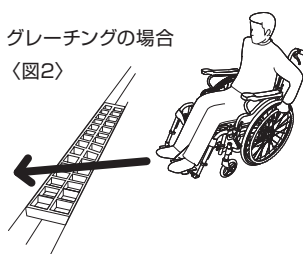
溝、踏み切りの場合

〈図1〉



グレーチングの場合

〈図2〉



●介助してもらう場合

①キャストや駆動輪の幅や直径よりも広い溝や踏み切り等を通過する場合は、〈図1〉のように溝に対してできるだけ直角になる角度で進入してください。

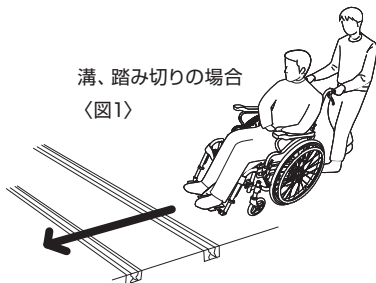
直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまって抜けなくなる恐れがあります。

「9-3段差での走行方法」のようにして、溝の手前でキャストを持ち上げてから通過するの一つの方法です。

②グレーチング（側溝を埋める金網）を通過する場合は、〈図2〉の様な角度で進入します。

溝、踏み切りの場合

〈図1〉



グレーチングの場合

〈図2〉



警告

交差点内や踏み切りでは、特に注意してください。交差点や踏み切り内で、立ち往生すると非常に危険です。

10 日常のお手入れと点検方法

下記の部分を1日に1回ご使用前に必ず点検してください。また、点検していない車椅子はご使用にならないください。



警告

点検の結果異常を発見された場合はそのまま使用せず、取扱店に修理交換をお申し出ください。

1. **介助用ブレーキ** 適正なききしろを点検してください。ブレーキのききしろが少なかったり、左右が違っている場合はそのまま使用せず、取扱店にお申し出ください。
2. **駐車ブレーキ** 駆動輪の空気圧が適正な場合、駆動輪がややへこんでいる位が適正なきき具合の目安です。ききがゆるい場合はそのまま使用せず、取扱店にお申し出ください。
3. **駆動輪およびキャスト**
 - ① 駆動輪に空気は入っているか。
* 適正空気圧
18インチの場合、4.5kgf/cm²・450kPa
20インチの場合、7kgf/cm²・700kPa
22、24インチの場合、7.5kgf/cm²・750kPa
 - ② 駆動輪がパンクしていないか。
 - ③ 駆動輪やキャストに異物がささっていないか。
 - ④ 駆動輪やキャストの溝はあるか。
 - ⑤ 駆動輪に大きなひずみや損傷はないか。
 - ⑥ 駆動輪の空気バルブがゆるんでいないか。
 - ⑦ 大きなガタつきがなくスムーズに回転するか。
4. **フットサポート** ① ネジがゆるんでないか。
② フットサポートを上跳到ね上げた際、跳ね上げた状態を保つことができず、すぐに下がってこないか。
③ 汚れた場合はぞうきんなどでふいてください。
5. **バックサポート・シート・レググループ** ① 汚れた場合は、車椅子から取り外します。
② やわらかいスポンジやタオルを使用し、中性洗剤で汚れた所だけを部分洗いしてください。(洗濯機は使用しないでください。)
③ 洗った後は日陰干しし、よく乾燥させてください。
6. **アームサポート・塗装面** ぬれたタオルを固くしぼって中性洗剤を用いてふいてください。
7. **テーブル** ぬれたタオルを固くしぼって中性洗剤を用いてふいてください。
シンナーなどの溶剤を使用しないでください。水洗いはしないでください。

11 保管方法

水分や直射日光をさけ、日陰で保管してください。

12 廃棄方法

- 各自治体の指示に従い、廃棄処分にしてください。
本体フレーム：強化アルミ合金 / シート：ポリエステル

13 保証

保証規程

- I. 保証の範囲
- 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合は、この保証書により無料で修理いたします。
 - 保証期間は1年間です。
 - 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - 取扱い過誤による故障。
 - 製品に改造を加えた場合の故障。
 - 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - 駆動輪の磨耗・パンク、シートの破損、その他消耗部品および各部の劣化による故障・損傷
 - 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - 保証書のご提示がない場合。
 - 以上の保証は本製品を日本国内で使用した場合に限ります。
 - この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
- II. サービスのご利用
- 保証期間中、万一故障が生じた場合は、お買い上げの取扱店へ保証書を添えてお申し出ください。
- III. ご注意
- 保証書の再発行はいたしませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規程」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償で修理いたします。

機 種 名		リアライズシェイブ	シリアルNo.
お客様	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名	TEL	
お買い上げ日		平成 年 月 日	保証期間 購入日より1年
取扱店名			
住所			

K パシフィックサプライ株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領1丁目12番1号
TEL 072-875-8008 (代) FAX 072-875-8010

製造元

 **パシフィックサプライ株式会社**

本 社 〒574-0064 大阪府大東市御領1-12-1
TEL 072 (875) 8008 FAX 072 (875) 8010

<https://www.p-supply.co.jp/>

販売店

※取扱説明書の著作権はパシフィックサプライ株式会社に帰属しており、許可なく取扱説明書の全て、または一部を複製することはお断りいたします。